

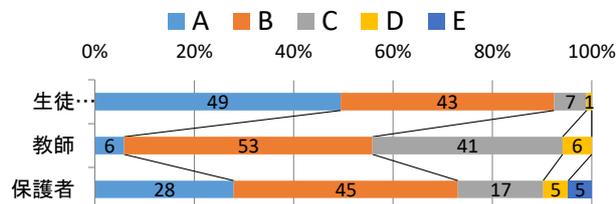
## 令和 2 年度 日進北中学校 学校診断アンケートの結果①【生徒、教師、保護者】

<回答数> 生徒:359名 教師:32名 保護者:259名

A: よくあてはまる B: どちらかと言えば、あてはまる  
 C: どちらかと言えば、あてはまらない D: あてはまらない  
 E: 分からない、どちらとも言えない(無回答)

### ① 進んであいさつをしている。 ( % )

	A	B	C	D	E
生徒全体	49	43	7	1	
教師	6	53	41	6	
保護者	28	45	17	5	5

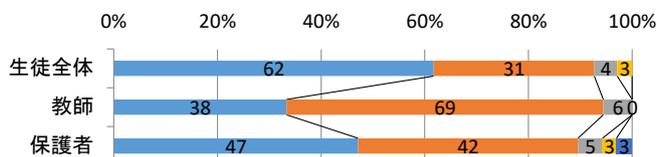


#### 【考察】

・この設問に対する生徒・教師・保護者の評価の差が大きい。生徒のAB回答率は90%を超えているが、保護者の回答率は80%、教師は60%を切っている。新型コロナウイルス感染防止対策のため、マスクの着用、大声を出さない学校生活のため、元気よいあいさつを控えた結果、生徒はあいさつをしている意識はあるが相手に伝わっていない現状を感じる。「あいさつの意義や大切さ」について再確認し、新しい生活様式の中のあいさつの仕方を検討し、どあいさつの励行を進めていきたい。

### ② 体育祭や文化祭など、行事を楽しんでいる。

	A	B	C	D	E
生徒全体	62	31	4	3	
教師	38	69	6	0	
保護者	47	42	5	3	3

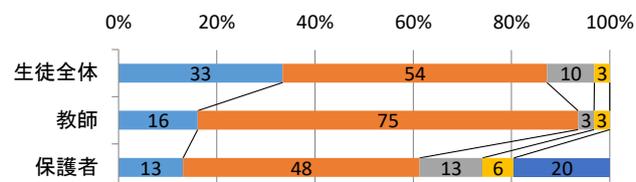


#### 【考察】

・コロナ禍での体育祭、文化祭であったため、体育祭は種目を大幅に変更しての開催となった。応援についても拍手のみと制限が大きかった。文化祭は有志の発表や各学級の合唱を収録で行い各学級での鑑賞となり、間近で感じる迫力や感動を感じる事ができなかった。保護者の参観についても見送らせていただいた。この状況の中、生徒や教師が内容を検討し、アイデアや工夫を凝らして行事を開催し、ABの回答率が高かったことを評価したい。来年度の実施に向けて内容を検討し、行事を核とした主体的で活力のある学校生活の推進を図っていきたい。

### ③ 授業は、学びやすい。

	A	B	C	D	E
生徒全体	33	54	10	3	
教師	16	75	3	3	
保護者	13	48	13	6	20

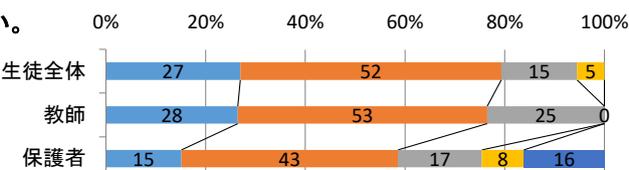


#### 【考察】

・感染リスクの高い「生徒が近距離で行う活動」が制限され、授業の形式を試行錯誤し何が出来るかを工夫しながら行ってきた。生徒・教師のAB回答率が90%近く得られたのは、授業に真摯に取り組んだ成果と考えたい。しかし、「授業が進むのが速く、理解できない」「教科書をまとめる授業でつまらない」「授業に集中できない」など答えている生徒への配慮は必要である。来年度から新学習指導要領が実施される。「主体的、対話的で深い学び」について授業研究を進め、「今日の授業はよく分かった」と教師と生徒、生徒と生徒が関わり合う授業展開の推進を図っていきたい。

### ④ 授業で分からないことについて、先生に質問しやすい。

	A	B	C	D	E
生徒全体	27	52	15	5	
教師	28	53	25	0	
保護者	15	43	17	8	16

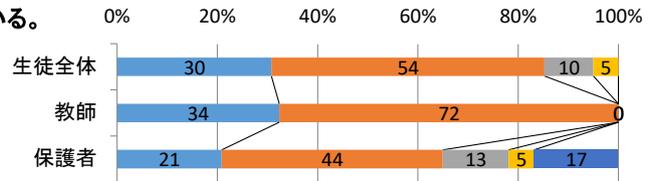


#### 【考察】

・約2割の生徒と教師がこの設問に「質問しにくい」と答えている。生徒は「先生に聞きにくい」「質問のタイミングが分からない」「話すことが苦手」など意識的な抵抗感をもっている。教員は、働き方改革が進められてはいるが、時間的余裕がない状況が完全に解消されていない。忙しい状況ではあるが、テスト期間中の授業後の自主学習では、生徒が教員に抵抗なく自由に質問をする姿が見られたように、日常の授業や学校生活の中でそれぞれの教員が質問を受けられる場の設定ができるよう工夫をしていきたい。

⑤ 学校には、自分の気持ちをわかってくれる先生がいる。

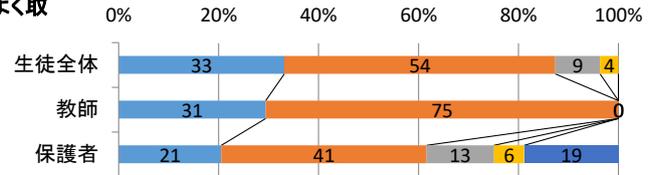
	A	B	C	D	E
生徒全体	30	54	10	5	
教師	34	72	0	0	
保護者	21	44	13	5	17



【考察】  
 ・毎学期に担任と生徒が一对一で行う教育相談は、生徒指導、生徒理解の重要な柱として取り組んでいる。事前アンケートを実施し、できる限り長期間設定し、生徒と向き合えるよう図っている。しかし、15%の生徒がCDの回答を選択している現状をしっかりと受け止める必要がある。「自分の気持ちを話すことはしない」と心を閉ざしている生徒に気づき、いつでも相談できる姿勢をもち、信頼関係を構築していく体制をさらに進めていきたい。

⑥ 先生たちは、自分たちが困っていることについて、よく取り組んでくれる。

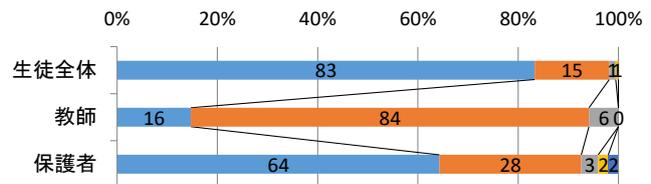
	A	B	C	D	E
生徒全体	33	54	9	4	
教師	31	75	0	0	
保護者	21	41	13	6	19



【考察】  
 ・80%以上の生徒がABの回答をしており、おおむね満足できる回答を得ることができた。今後も、報告・連絡・相談の体制を大切に、教師一人で問題を抱え込むことなく、学年や学校全体で組織として生徒を見守る力を伸ばしていきたい。  
 ・教師と保護者のAB回答率に大きなギャップがある。このギャップの改善を図りたい。そのためには、学校の取組の情報公開を学年通信、各種たより、HP等の活用を通して充実させるとともに、保護者の意見、声に耳を傾ける場を大切にしていかなければならない。開かれた学校を目指し、保護者や地域とのコミュニケーション力の向上を図りたい。

⑦ 学校に仲の良い友達がいる。

	A	B	C	D	E
生徒全体	83	15	1	1	
教師	16	84	6	0	
保護者	64	28	3	2	2

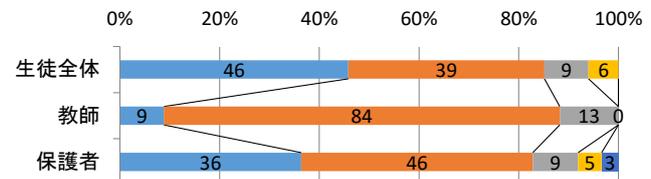


【考察】  
 ・生徒・教師・保護者ともにABの回答率が90%を超えている。生徒や保護者の回答率が高い点は満足できる。  
 ・教師は、友人関係の重要性に目を向け、慎重に回答している様子が見られる。思春期の生徒にとって、友達の存在は大きな影響力をもっている。表面的な友人関係ではなく、真の友人とはどのようなものかを考えさせ構築できる力を身に付けさせるとともに、孤立傾向にある生徒をもれなく把握し、支援していきたい。

⑧ 学校へ行くのが楽しい。

(%)

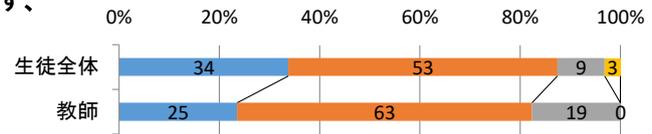
	A	B	C	D	E
生徒全体	46	39	9	6	
教師	9	84	13	0	
保護者	36	46	9	5	3



【考察】  
 ・生徒のA・B回答率が85%を示しており、生徒の多くは学校生活を楽しんでいる。しかし、そうでないCD回答の生徒が15%と昨年度より増えている。保護者のCD回答率が昨年度と変わらないことも見逃せない。今年度は、学校生活に大きな制限があったことも影響していると考えられるが、一人の不安、不満がやがて全体の不安、不満に発展することがある。今後も「子どもが行きたい学校」「保護者が行かせたい学校」を目指して邁進していきたい。  
 ・一部生徒は心を閉ざしていることや、生徒の心の状態は毎日変化していることを忘れずに生徒指導に取り組んでいきたい。

⑨ 委員会や実行委員、有志の活動など、人任せにせず、みんなのためになることを進んで行っている。

	A	B	C	D
生徒全体	34	53	9	3
教師	25	63	19	0

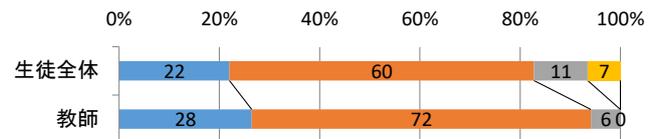


**【考察】**

- ・生徒会活動、委員会活動や実行委員、有志による活動は、「今できることを考え全力で取り組む、そして楽しむ」姿勢で、生徒の創意工夫が生かされていた。制限が多い中ではあったが、体育祭や文化祭、学年行事などでは様々なアイデアを生かして、実施することができた。年末の校内清掃ピカピカ隊では、多くの有志が加わり達成感を得た。
- ・積極的に皆のために活動する生徒がいる半面、一部生徒のコメントには、自信がなく消極的になっている様子が見受けられる。自尊感情や自己有用感が低い生徒の存在は明らかである。今一歩踏み出せない生徒、仲間や教師が、背中を少し押せば・・・という生徒に、「互いに貢献し合う仲間たち」の輪に入れるよう、各種イベント、有志活動を継続していきたい。小さな達成感を積み重ね大切に見ていきたい。

⑩ 自分は学校で認められていると思う。

	A	B	C	D
生徒全体	22	60	11	7
教師	28	72	6	0

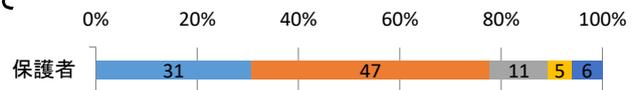


**【考察】**

- ・子どものAB回答率は82%と多くの生徒は認められていると感じている。委員会や学年行事など、生徒を中心として活躍できる場を設定し、活性化を図ってきた成果と考えられる。さらに、教師の観察眼の改善と、生徒を認める声掛けの改善があつたのことで考えたい。
- ・依然として、「認められることがない、役に立っていることをしていない、貢献していない、良いところがない、勉強の不出来」といった限られた狭い範囲で自己評価し劣等感をもつ生徒が存在している。その評価基準は、教師や保護者、社会が生徒たちに植え付けているといつてもよいので、今後も我々の反省材料として忘れてはいけない。
- ・どの生徒にもそれぞれの得意分野があり、努力を積み重ねている面が必ずある。登校し教室で笑顔を見せるだけでも場を和ませている。我々教師は、今後も生徒の存在そのものを認め励まし自信をもたせていきたい。あえて目立たない生徒に目を向けて、大切な存在であることを認めて伝え、自己有用感を高めさせるという視点を持ち続けなければならない。

⑪ 保護者 学校は子どもたちの活動の様子を積極的に伝えようとしている。

	A	B	C	D	E
保護者	31	47	11	5	6

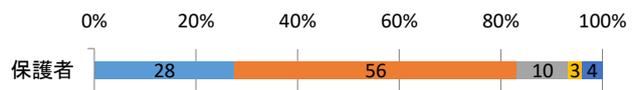


**【考察】**

- ・AB回答率が80%を切っている。学年通信や学校たよりをはじめ、HPによる情報公開に加え、PTA活動の充実や日常の保護者との連絡や会話の充実にさらに力を入れていかなければならない。
- ・「開かれた学校」を唱えても、保護者が学校へ足を運ぶ機会は少ない。今後も事実に基づく積極的な情報公開を進め、学校理解を深めてもらえるように努めなければならない。
- ・各行事へ保護者が参観できるようにしてほしいなど保護者が来校する機会を増やしてほしい要望があるが、意に沿えるよう努力していく。今年度は感染防止対策のため授業参観もほとんど実施することができなかった。状況を見極め、生徒の学校での活動を見ていただける機会を設定していきたい。

⑫ 保護者 学校が保護者に出す文書(たより、連絡等)やホームページの内容は分かりやすい。

	A	B	C	D	E
保護者	28	56	10	3	4



**【考察】**

- ・学年通信や学校たよりをはじめとした各種便りの内容が、生徒の様子や伝えたいこと、保護者が知りたいことを的確に表すよう努力を継続する。保護者にとって、行事予定は重要な情報である。正確な情報をできるだけ早くお知らせできるように努めていきたい。
- ・HPを学校を知る手段として活用している保護者が増えている。今後も、日常の生徒の活動場面(教育活動)を伝えていくため、授業内容や学年集会等の情報収集に努めUPしていく。